

2 1880～90年代の北海道諸区町村の戸口について

—内務省地理局『地方行政区画便覧』、その他の統計書を手がかりとして—

四国学院大学 黒崎 八洲次良

本報告は、集落社会の成立および解体を位置づけて、その軌跡を観察するための座標軸を開発することを意図する。この構想にいたる経過は、次に掲げる黒崎諸稿にある。

1887～1940年の北海道諸区（市）町村の戸口を観察している過程で、かねて構想していた「集落社会の類型について」（日本村落研究学会『村落社会研究』3-2 1997年3月）が形を整えたのであるが、なお、問題が残った。

それは「集落社会の成立と解体」に関わることであり、その座標軸の開発の示唆は、資料にあげた諸稿と今回取り上げた主題より得た。この点からみれば、「集落社会の成立と解体について」とすべきであるが、それにいたる経緯や大きな示唆を得た根拠を考え、標記の課題にしておきたい。さて私たちが提案した「集落社会の類型について」は、その前提として「集落の成立と解体」によって補完されなければなるまい。周知のように、今日、過疎化によって各地において集落の解体と再編が進んでいる。他方、都市化によって、新しい集落と古い集落の分化と再編及び解体は、今日に限定される事象ではない。そこで、まず、1880～90年代の北海道諸区町村の戸口の推移を観察した。それから以下に述べる示唆を得た。それに依拠して、前稿を補足するため、戸口の推移からみた「集落の成立と解体」にかかわる試論を述べてみたい。なお、本報告は次の順序にしたがって行なう。

報告は以下のように展開したい。

1. 北海道の国、郡、区町村など
2. 北海道の諸区町村の戸口の資料について
3. 1881年の北海道の郡区別戸口について
4. 1887年前後の北海道諸区町村と戸口について
5. 現在戸数4戸未満の町村および村名未定の郡について
6. 戸口から見た1880～90年代の北海道町村の分類枠組み
7. 戸口から見た集落社会の成立と解体の座標軸